

犬山市文化史料館

犬山市は、城下町の遺産を保存している日本で数少ない場所の一つです。城とまちミュージアムは、その歴史を守り、町が栄えた江戸時代（1603～1867）の生活を感じさせます。その展示は、武家と一般市民の物語を伝えています。

ミュージアムの主な特徴は、1840年頃の犬山城の町の大きなジオラマです。この城は、日本の近代化運動が多く、城の解体をもたらした明治時代（1868-1912）の前の状態で展示されています。もはや存在しない多くの建物、門、壁を紹介し、城の複雑な規模感を正確に示します。下に広がる町は、まだ同じ格子状のパターンで構成されています。今日のメインストリートは当時と同じように見え、狭い商人の建物が密集しています。

展示室1には、長く犬山城の所有者であった成瀬家伝来の宝物が展示されます。

展示室2は、城下町の暮らしや犬山の民俗などが展示されます。いずれも定期的に展示替えを行なっています。